

## 第3学年1組 国語科学習指導案

### 1 単元名 「ことばを磨く——俳句十句」

#### 2 単元の目標

- ・俳句のきまりや特徴を理解して内容を捉えようとしたり、俳句の世界を読み味わおうとしたりする。 〔国語への関心・意欲・態度〕
- ・語句の意味や表現の効果を考えながら、俳句の世界を読み味わうことができる。 〔読む能力〕
- ・感情の表現の効果的な使い方を考えて、俳句を詠むことができる。 〔書く能力〕
- ・ことばの選択や使い分け、表現の効果を考えながら読み、語感を磨き語彙を豊かにする。 〔言語についての知識・理解・技能〕

#### 3 単元計画（全6時間）

次	時	主な学習活動 ☆協同的探究学習	協同的探求学習における	
			○ 指導内容	● 留意点
一	1	・俳句の特徴について確認する。 ・俳句の主題や句意をつかむための方策を確認する。		
	2 3 4	・大高 翔「何もかも散らかして発つ夏の旅」以外の俳句について、表現の工夫と効果に着目し、それぞれの俳句の情景を捉え、心情を考える。		
	5 本時	☆大高 翔「何もかも散らかして発つ夏の旅」の俳句を読み味わう。	○この俳句からなぜ多くの人が「期待感」を感じるのかを考える。 ●根拠をあげて自分のことばで説明できるようにする。	
二	1	・句会を開く		

#### 4 指導上の立場

##### ○単元観

俳句は五・七・五の十七音から成り立つ日本独特の短詩型文学である。四季の変化に富む日本の風土の中に生まれ、五音・七音を基調にして、自然や人生を歌い続けてきた。そこには、日本人がものの見方を凝縮させ、表現を工夫し続けてきた数百年の伝統が刻み込まれており、ことばの意味の深さを味わうためには、またとない教材である。

極限までことばを削り、磨き抜かれた俳句の表現にふれることで、生徒のことばへの関心や感覚をより細やかに、そして豊かにすることをねらいたい。また、表現者としても、ことばを磨いてよりよい表現へと高めていくことのおもしろさを実感してほしい。

##### ○生徒観（既習事項と身に付けている力）

生徒たちは2学年時に「短歌」について学習し、形式の特徴や句切れ、体言止めや比喻法など主な表現技法について学習した。また、小学生の頃から地域の「さくらのうた」コンテストに短歌や俳句を詠んで応募している。しかし、五音・七音のリズムにのせて表現することに精一杯で、ことばを吟味したり、学習した表現技法を用いて表現できる生徒はまだ少ない。

短歌以上にことばをそぎ落として表現する俳句にふれる活動を通して、ことばによる表現の多様さに気づき、自らもことばを選んでよりよい表現へ高めようとする姿勢を育てたい。

##### ○指導観（協同的探究学習場面の位置付けとそのねらいについて）

さまざまな作者の俳句の表現から主題と句意をつかむなかで、表現方法の多様性を実感させたい。特に、主題を感じさせる表現について、その効果を表現技法や使う文字、語感等、様々な観点から根拠をあげて説明させて理解を深めたい。また、つかんだことを活用して、自分の感情を多様な表現で伝えようとする姿勢につなげたい。

5 本時案（第一次 第5時）

(1) 本時の目標（わかる学力）

「何もかも散らかして発つ夏の旅」の句から、なぜ多くの人が「期待感」を感じることができるのか、根拠をあげて説明することができる。

(2) 展開

学習活動	教師の支援
<p><b>前提問題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大高 翔「何もかも散らかして発つ夏の旅」の表現の特徴等を確認する。</li> </ul>	
<p><b>導入問題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「何もかも散らかして発つ夏の旅」の句からなぜ多くの人が「期待感」を感じることができるのか説明しよう。</li> </ul>	<p><b>導入問題のポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前提問題で確認した表現の特徴や技法、語感などを手がかりに、複数の根拠を考えることができる。</li> </ul>
<p><b>個別探究</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに着目した表現と、その表現が与える印象を、自分のことばで書いていく。</li> <li>【予想される生徒の記述例】</li> <li>・「夏」といえば「夏休み」が連想され、楽しいことがいくつもありそうな感じがする。</li> <li>・「何もかも」ということばに、「嫌なことや煩わしいことも全部」という意味が感じられ、それから解放されるから。</li> <li>・「旅」という体言止めが途中止めた感じできるとにかく早く行きたいと焦っている感じ。</li> </ul>	<p><b>考えを引き出す工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前提問題では俳句を板書し、生徒との対話を通じて確認した表現の特徴や技法等を書き込んでいく。その板書を、導入問題の個別探究場面で、生徒が自分自身で考えるための手がかりの一つとする。</li> </ul>
<p><b>協同探究</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5人で1つのグループを作り、自分が考えた表現の効果を発表し合う。</li> <li>・各グループの代表が、グループで出た意見をクラス全体に対して発表し、共有する。</li> <li>・<b>関連付け発問</b>「似ている考えや共通することからはどんなことか」を考えさせる。</li> <li>【予想される生徒の考え】</li> <li>・「夏」が夏休みの楽しさや夏休みへの期待を連想させる。</li> <li>・「旅」という体言止めが、旅を強調していて旅に向かう焦燥感（早く行きたい気持ち）や高揚感（気持ちの高まり）を感じさせる。</li> <li>・<b>追究型発問</b>「散らかして」の対義語は何か、（→片付けて）「散らかして」と「片付けて」では、句の印象がどう違ってくるかを考えさせる。</li> <li>【予想される生徒の考え】</li> <li>・「散らかして」はとにかく早く出かけた感じ。「片付けて」は覚悟の旅にでも出る感じ。</li> </ul>	<p><b>協同探究の進め方や工夫</b></p> <p><b>発表</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いメモをもとにグループ代表が発表する。</li> <li>・グループ代表の発言（の一部）を指導者がそのまま板書していく。</li> </ul> <p><b>関連付け</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの発表内容の間で似ている考え方や共通する指摘などがないか考えさせる。</li> <li>・生徒の発言（関連付ける言葉）を指導者が板書に加えていく。</li> </ul> <p><b>本質追究</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感情の表現の多様性やことばがもつイメージが広がるよう心がける。</li> <li>・言葉や語順を変えて印象や効果を対比させる様な追究型発問も、適宜実施する。 （例）・体言止めと用言で終わる場合の対比 ・類似語に変えた場合の対比 ・対義語に変えた場合の対比</li> <li>・短く表現された事物・事象・行動などが、特定の心情を想起させ、主題に迫る効果をもつことに気付かせる。</li> </ul>
<p><b>展開問題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の話し合いを踏まえて、「期待感」を感じることができる理由について、もう一度自分の考えを書く。</li> <li>・「期待感」を主題にした俳句を一句考える。</li> </ul>	<p><b>展開問題のポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の話し合いを踏まえて、感情の表現の効果を生かして、「期待感」が感じられる俳句を作ることができる。</li> </ul>
<p><b>評価</b></p> <p>A基準 協同探究で話し合われた表現の効果を生かし、工夫して、「期待感」を持った体験を表現した俳句を作っている。</p> <p>B基準 感情を直接的に表すことばを使わずに、「期待感」を持った体験を表現した俳句を作っている。</p>	